

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学		担当者	浅海 真弓	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中にある化学物質や現象について学び、化学の役割について考える。</p> <p>【概要】私たちの生活には、様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では、衣生活に関わる物質や現象を取り上げ、化学の力やしくみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。</p> <p>【到達目標】化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し、被服の適切な管理に活かすことができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本衣料管理協会刊行委員会編『改訂 被服整理学』日本衣料管理協会 日本衣料管理協会出版部編『染色加工学』日本衣料管理協会 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 生活の中の化学 — 洗濯の化学、染色の化学</p> <p>第 2 回 被服整理 1 — 被服の汚れ（汚れの分類）</p> <p>第 3 回 被服整理 2 — 被服の洗浄（洗濯用水と洗剤）</p> <p>第 4 回 被服整理 3 — 被服の洗浄（界面活性剤の種類と働き）</p> <p>第 5 回 被服整理 4 — 被服の洗浄（配合剤の種類と働き）</p> <p>第 6 回 被服整理 5 — 被服の洗浄（洗濯条件と洗浄力の関係）</p> <p>第 7 回 被服整理 6 — 被服の洗浄（商業洗濯）</p> <p>第 8 回 被服整理 7 — しみ抜き</p> <p>第 9 回 被服整理 8 — 漂白と増白</p> <p>第 10 回 被服整理 9 — 柔軟仕上げ、被服の保管（防虫・防カビ）</p> <p>第 11 回 染色加工 1 — 染色の方法（浸染と捺染）</p> <p>第 12 回 染色加工 2 — 染料の種類</p> <p>第 13 回 染色加工 3 — 染料と繊維の結合</p> <p>第 14 回 染色加工 4 — 染色堅ろう度（変退色と汚染）</p> <p>第 15 回 染色加工 5 — 繊維加工（外観・風合いを変える加工と機能加工）</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	レポート（45%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	ビジュアルデザイン論 I		担当者	北 一浩	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。</p> <p>【到達目標】アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 導入 アイデアとは？</p> <p>第 3 回 発想の準備 1 もっと楽しもう</p> <p>第 4 回 発想の準備 2 自分を信じよう</p> <p>第 5 回 発想の準備 3 「その気」になろう</p> <p>第 6 回 発想の準備 4 子供に戻ろう</p> <p>第 7 回 発想の準備 5 「知りたがり」になろう</p> <p>第 8 回 発想の準備 6 笑われることを恐れるな</p> <p>第 9 回 発想の準備 7 「考え方」のヒント</p> <p>第 10 回 発想の準備 8 いろいろなものを組み合わせよう</p> <p>第 11 回 発想のプロセス 1 質問を変えてみよう</p> <p>第 12 回 発想のプロセス 2 情報をかき集めよう</p> <p>第 13 回 発想のプロセス 3 いったん全部忘れてしまおう</p> <p>第 14 回 発想のプロセス 4 ひらめいたら実践しよう</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	プレゼンテーション（60%） 提出課題（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

授業科目	住生活学		担当者	川島 茂
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得</p> <p>【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。</p> <p>【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書</p> <p>(2) 日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス 建築の学び方、考え方</p> <p>第 2回 建築設計の主題 建築設計理念について</p> <p>第 3回 建築技術者の役割 設計競技による設計者選定</p> <p>第 4回 建築計画とは-1 建築行為 (生産) と建築計画</p> <p>第 5回 建築計画とは-2 建築計画と設計図書</p> <p>第 6回 空間と行為-1 建築の機能 その歴史的背景</p> <p>第 7回 空間と行為-2 建築の機能 合理からコミュニティデザインへ</p> <p>第 8回 近現代建築について-1 ル・コルビュジェの建築</p> <p>第 9回 近現代建築について-2 ミース・ファン・デル・ローエの建築</p> <p>第 10回 近現代建築について-3 建築の公共空間</p> <p>第 11回 寸法の計画 人体寸法と動作寸法</p> <p>第 12回 プランニング演習 室空間のプランニング</p> <p>第 13回 風土・文化・建築 日本の住空間</p> <p>第 14回 文化・社会・建築 日本の現代住宅建築</p> <p>第 15回 まとめ・総合レポート出題</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目, 教職必修

授業科目	色彩学		担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所</p> <p>(2) 随時紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2回 色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み</p> <p>第 3回 色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名</p> <p>第 4回 色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系</p> <p>第 5回 色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色</p> <p>第 6回 色の基礎知識 5：照明：演色性</p> <p>第 7回 色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果</p> <p>第 8回 色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ</p> <p>第 9回 色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式</p> <p>第 10回 色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法</p> <p>第 11回 色の基礎知識 10：色彩調和論</p> <p>第 12回 色の応用 1：色彩計画</p> <p>第 13回 色の応用 2：色と文化</p> <p>第 14回 色の応用 3：商品と色</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	衣生活学		担当者	浅海 真弓				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服について様々な側面から多角的に学び、生活における衣服の役割について考える。</p> <p>【概要】衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】衣服の役割を理解するとともに、日常の衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？</p> <p>第 2 回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態</p> <p>第 3 回 衣服の変遷 1 — 西洋の服装の変遷</p> <p>第 4 回 衣服の変遷 2 — 日本の服装の変遷</p> <p>第 5 回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情</p> <p>第 6 回 衣服の素材 1 — 繊維の種類と特徴</p> <p>第 7 回 衣服の素材 2 — 糸・布の種類と特徴</p> <p>第 8 回 衣服の管理 1 — 洗濯、漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、保管</p> <p>第 9 回 衣服の管理 2 — 〈実習〉しみ抜き</p> <p>第 10 回 衣服の品質と表示 — 繊維の組成と取扱い表示、サイズ表示</p> <p>第 11 回 衣服の機能と快適性 1 — 衣服による体温調節 (衣服内気候)</p> <p>第 12 回 衣服の機能と快適性 2 — 動きやすさと拘束性 (衣服圧)</p> <p>第 13 回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション</p> <p>第 14 回 衣服の生産と流通 — アパレル産業と既製服</p> <p>第 15 回 衣服と環境 — 衣服の廃棄とリサイクル</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (15%)							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形基礎		担当者	坂上 ちえ子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。</p> <p>【概要】まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用方法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。</p> <p>【到達目標】裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 基礎縫い 1：手縫い① 用具の説明、並縫い</p> <p>第 3 回 基礎縫い 2：手縫い② まつり縫い、他</p> <p>第 4 回 基礎縫い 3：手縫い③ ボタン、スナップつけ</p> <p>第 5 回 基礎縫い 4：ミシン縫製 ミシン、ロックミシン</p> <p>第 6 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 1：人体計測と製図</p> <p>第 7 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 2：裁断、しるしつけ</p> <p>第 8 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 3：仮縫い、試着</p> <p>第 9 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 4：本縫い①</p> <p>第 10 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 5：本縫い②</p> <p>第 11 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 6：仕上げ、着装評価</p> <p>第 12 回 工芸 1：織り</p> <p>第 13 回 工芸 2：毛糸かぎ針編み</p> <p>第 14 回 工芸 3：フランス刺繍</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	消費生活論		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 私たちが「生活すること」は「消費すること」である。消費者問題とその背景を知り、課題と解決、関連する事項を学ぶ。</p> <p>【概要】 2004年に改正消費者保護基本法「消費者基本法」が施行され、消費者の権利が明記された。その中に、「教育の機会の確保」があり、自ら学び、協働して課題を解決することが求められている。主体的に参画できるよう基礎知識を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 保護されるべき消費者ではなく、生産企業や社会問題との関わりを見直し、真に自立した消費者となることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 随時紹介							
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 消費者問題1：消費者問題とは 第3回 消費者問題2：消費者教育 第4回 消費者問題3：表示と消費者 第5回 消費者問題4：消費者行政 第6回 消費者問題5：特定商取引と契約トラブル① 第7回 消費者問題6：特定商取引と契約トラブル② 第8回 消費者問題7：消費者の安全 第9回 消費者問題8：地球環境とエネルギー需給 第10回 関連基礎事項1：企業と経営の基礎知識 第11回 関連基礎事項2：経済と金融の基礎知識 第12回 関連基礎事項3：生活経済と家計 第13回 関連基礎事項4：社会保障制度の概要 第14回 関連基礎事項5：衣・食・住生活における消費者問題 第15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 授業での活動内容(30%)							
実務経験について	消費生活アドバイザー、消費生活相談員の有資格者							

授業科目	被服材料学		担当者	浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服を構成している繊維、糸、布それぞれの特徴を知り、これらが総合された被服材料の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】繊維や糸、布の種類や構造などについて概説した後、被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介、簡単な実験を取り入れながら、身近な衣服の素材に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】いつも自分が着ている衣服の素材や構造、特性を理解し、これらの知識を衣服の製作・購入、着用、洗濯、保管などの場面で活用できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社							
授業スケジュール	第1回 繊維とは？ - 繊維の歴史と分類 第2回 繊維の構造 - 繊維の構造と性質の関係 第3回 天然繊維1 - 植物繊維(綿、麻) 第4回 天然繊維2 - 動物繊維(羊毛) 第5回 天然繊維3 - 動物繊維(絹) 第6回 化学繊維1 - 再生繊維(レーヨン、キュブラ) 第7回 化学繊維2 - 半合成繊維(アセテート、トリアセテート) 第8回 化学繊維3 - 合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)、繊維の性能比較 第9回 新しい繊維 - 繊維化技術の発展と高機能素材 第10回 糸の種類と構造 - 紡績糸・フィラメント糸の性質、糸の太さにより (ミニ実験：糸の観察) 第11回 布の種類と構造1 - 織物の組織と性質 第12回 布の種類と構造2 - 編物の組織と性質、織物と編物の性能比較 第13回 布の種類と構造3 - 不織布・皮革の性質、布の構造特性 (ミニ実験：織物の観察) 第14回 被服材料の性質1 - 耐久性と形態的性質 第15回 被服材料の性質2 - 快適性と外観的性質							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業ごとに提出するワークシート(35%) + 課題(15%)							
実務経験について	なし							

授業科目	生活化学実験		担当者	浅海 真弓		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	実験方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】被服の素材や洗濯、染色についての知識を深め、科学的に考察する力を身につける。</p> <p>【概要】被服材料学（繊維・糸・布の性質）、被服整理学（洗濯処理等の効果）および染色学（染色方法、染色堅ろう度）に関連する実験を行う。</p> <p>※ 生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。</p> <p>【到達目標】実験を通じて被服素材や洗濯、染色への知識や技術を習得する。また、データ処理やレポートの作成方法を習熟するとともに、感覚的にではなく具体的な根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（実験書配布）</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の説明 — 実験を行う上での注意点、レポートの作成方法</p> <p>第 2 回 糸の太さ — 番手の測定</p> <p>第 3 回 織物の構造 — 厚さ・目付・含気率・織り縮み率の測定</p> <p>第 4 回 吸水性試験 — パイレック法および吸水率法</p> <p>第 5 回 繊維の燃焼性 — 繊維の燃え方・におい・灰の観察</p> <p>第 6 回 繊維の染色性 — 繊維と染料の相性</p> <p>第 7 回 繊維の溶解性 — 混用率の測定</p> <p>第 8 回 糊付け・柔軟仕上げの効果 — 剛軟度の測定</p> <p>第 9 回 漂白・蛍光増白の効果 — 目視観察および機器による測定</p> <p>第 10 回 洗浄試験 — 洗浄力の評価</p> <p>第 11 回 合成染料による染色 — 直接染料および反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作成）</p> <p>第 12 回 染色堅ろう度試験 1 — 洗濯堅ろう度</p> <p>第 13 回 染色堅ろう度試験 2 — 摩擦堅ろう度</p> <p>第 14 回 天然染料による染色 — 媒染した染色布の色彩比較</p> <p>第 15 回 工芸染色 — 絞り染め</p>					
授業外学習(予習・復習)	事前に実験書を精読し、実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理し、考察してレポートを作成すること。					
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋実験への取り組み（30%）					
実務経験について	なし					

授業科目	食物と栄養		担当者	中島 一喜		
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食物に含まれている栄養成分と加工利用方法について学ぶ。</p> <p>【概要】食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介し、食物の保存や調理中に生じる栄養成分の化学的な変化について解説する。</p> <p>【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分やその働き、および加工利用方法について理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第3版』南江堂</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 人間と食物、食品加工</p> <p>第 2 回 穀類の栄養</p> <p>第 3 回 穀類の加工利用</p> <p>第 4 回 いも類の栄養と加工利用</p> <p>第 5 回 豆類の栄養と加工利用</p> <p>第 6 回 野菜類の栄養</p> <p>第 7 回 野菜類の加工利用</p> <p>第 8 回 果実類の栄養</p> <p>第 9 回 果実類の加工利用</p> <p>第 10 回 きのこと、海藻類の栄養と加工利用</p> <p>第 11 回 食肉類の栄養と加工利用</p> <p>第 12 回 魚介類の栄養と加工利用</p> <p>第 13 回 乳類の栄養と加工利用</p> <p>第 14 回 卵類の栄養と加工利用</p> <p>第 15 回 油脂、調味料の栄養と加工利用</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業後のノート整理など復習を確実にすること。					
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%					
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事					

(注) 教職必修

授業科目	調理学		担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了利
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。</p> <p>【概要】・自然科学の手法により、調理過程に生じる種々の諸現象を確認する。・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ。</p> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う。基本的な調理操作法の習得。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) オールガイド食品成分表 実教出版株式会社</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院 石松成子 鏝 吉 外西壽鶴子 NEW 基礎調理学</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション 調理学の意義</p> <p>第 2 回 調理科学：砂糖の温度変化による変化について</p> <p>第 3 回 調理の基本：調味料の働きと特徴について</p> <p>第 4 回 調理の基本：食事と栄養素・調理器具について</p> <p>第 5 回 調理科学：卵の熱変性について</p> <p>第 6 回 調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について</p> <p>第 7 回 調理科学：小麦粉の特性について</p> <p>第 8 回 調理の基本：穀類の調理的意義・芋類・でん粉類・油の特性について</p> <p>第 9 回 調理科学：油の乳化について</p> <p>第 10 回 魚の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介）</p> <p>第 11 回 調理科学：ゲル化剤の特徴について</p> <p>第 12 回 調理の基本：海藻類・魚類・肉類について</p> <p>第 13 回 調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類について</p> <p>第 14 回 調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋ 調理操作の授業時に実施する小論文（10%）			
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など。			

授業科目	調理実習		担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了利
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理理論と調理操作の融合。</p> <p>【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる。・食環境整備の有効性を学ぶ。・清潔な食品の取り扱いの習得。・食事の作法とマナーについて学習する</p> <p>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得。食育による社会適応力の習得。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石原三妃ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について）</p> <p>第 2 回 日本料理 米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し</p> <p>第 3 回 西洋料理 ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、フレンチサラダ、コーヒー</p> <p>第 4 回 日本料理 親子丼、潮汁、なます、サイダー寒</p> <p>第 5 回 中国料理 白飯、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐</p> <p>第 6 回 非常時の料理 インスタント食品、IH 調理器を用いた調理</p> <p>第 7 回 西洋料理 サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶</p> <p>第 8 回 日本料理 散らし寿司、むらくも汁、即席漬、水羊羹</p> <p>第 9 回 中国料理 白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子</p> <p>第 10 回 日本料理 茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、もずく酢、抹茶ゼリー</p> <p>第 11 回 西洋料理 チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ</p> <p>第 12 回 日本料理 きつねうどん、即席付け、ねぎ味噌、黒蜜かけ</p> <p>第 13 回 行事食 ローストチキン、クリスマスケーキ</p> <p>第 14 回 郷土料理 鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実技試験（40%） 実技試験（40%） 授業ごとの実技内容の評価（20%）			
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など。			

(注) 教職必修

授業科目	服飾文化史		担当者	田邊 しづか				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】西洋と日本の服飾文化史、現代衣生活の成り立ち</p> <p>【概要】西洋と日本に分けて古い時代からの変遷を辿り、形態的特徴だけでなく、社会的、文化的背景を踏まえて服飾の歴史を学ぶ。授業は大きく分けて三部構成である。</p> <p>【第一部】西洋服飾史、【第二部】日本服飾史、【第三部】服飾文化史を捉える上で重要なテーマに関する西洋と日本の服飾</p> <p>【到達目標】西洋と日本の服飾の歴史、形態的特徴とその背景を理解する。 多様な文化、服飾観を学ぶことによって、現代衣生活や今後の可能性について考え、自分なりの見解を持つことができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、一部 Web でも公開</p> <p>(2) 深井晃子 (監修) 『増補新装カラー版 世界服飾史』, 美術出版社, 2010 増田美子 (編) 『日本服飾史』, 東京堂出版, 2013.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、服飾文化史の資料 (史料)、衣服の起源と機能</p> <p>第 2 回 西洋服飾文化史 1: 古代エジプト、古代ギリシャ、古代ローマの服飾</p> <p>第 3 回 西洋服飾文化史 2: 中世、ルネサンスの服飾</p> <p>第 4 回 西洋服飾文化史 3: 17 世紀オランダ市民、フランス絶対王政の貴族の服飾</p> <p>第 5 回 西洋服飾文化史 4: 18 世紀フランス宮廷の服飾</p> <p>第 6 回 西洋服飾文化史 5: 19 世紀イギリスのテイラー、フランスのモード</p> <p>第 7 回 西洋服飾文化史 6: オートクチュールとプレタポルテ、主要なデザイナー</p> <p>第 8 回 日本服飾文化史 1: 古代の衣服、服制の時代</p> <p>第 9 回 日本服飾文化史 2: きものの基礎知識、きものの変遷</p> <p>第 10 回 日本服飾文化史 3: 染織、文様、明治以降のきもの</p> <p>第 11 回 日本服飾文化史 4: 洋装化 - 明治、大正、昭和</p> <p>第 12 回 西洋・日本: 戦中・戦後、現代の服飾文化</p> <p>第 13 回 服飾文化史のテーマ 1: 西洋から見た東洋 - シノワズリ、ジャポニスム</p> <p>第 14 回 服飾文化史のテーマ 2: 服飾とジェンダー - 西洋の異性装、きものジェンダー</p> <p>第 15 回 服飾文化史のテーマ 3: 伝統的な染織品、歴史や技術</p>							
授業外学習 (予習・復習)	適宜提示 (予習・復習のためのキーワードや参考文献を提示)							
成績評価の方法	授業毎のコメントペーパー (50%)、期末レポート (50%)							
実務経験について	なし							

授業科目	保育学		担当者	飯田都・奥章三・池堂猛彦				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ (発達援助) が不可欠である。保育学講義では、保育 (発達援助) の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 (担当 奥) 子どもの発達の特性 ~ 乳幼児の発達と保育環境</p> <p>第 2 回 子どもの発達の過程 (その 1) ~ 身体発育、運動発達</p> <p>第 3 回 子どもの発達の過程 (その 2) ~ 精神発達、人間関係の発達 ~</p> <p>第 4 回 子どもの生活 (その 1) 栄養と食習慣、生活習慣の形成</p> <p>第 5 回 子どもの生活 (その 2) 健康管理 (子どもの病気への対応)</p> <p>第 6 回 子どもの生活 (その 3) 事故の実態と防止</p> <p>第 7 回 子どもの保育 (その 1) 保育の意義と重要性、保育環境</p> <p>第 8 回 子どもの保育 (その 2) 保育の方法</p> <p>第 9 回 子どもの保育 (その 3) 発達障害児への対応</p> <p>第 10 回 講義の振り返り</p> <p>第 11 回 (担当 飯田) 事前事後指導 (その 1): 事前指導</p> <p>第 12 回 (担当 池堂) 保育園における保育実習 (その 1)</p> <p>第 13 回 保育園における保育実習 (その 2)</p> <p>第 14 回 保育園における保育実習 (その 3)</p> <p>第 15 回 (担当 飯田) 事前事後指導 (その 2): 事後指導</p>							
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	(担当 奥) 筆記試験 (100%) 各担当者が 100 点 / 3 で点数を算出した後、3 人の合計を総合点として評価する。							
実務経験について	奥 : 病院に小児科医として勤務 池堂 : 保育園の園長として勤務							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	卒業研究A		担当者	浅海 真弓
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	通年	[単位]	4単位
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】被服材料学，被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し，その成果をまとめる。</p> <p>【概要】各自で研究テーマを設定し，課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し，考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ，卒業研究発表会で発表する。</p> <p>【到達目標】自分で計画を立てて実験を遂行することにより，課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会 福地健太郎，園山隆輔著『図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方』翔泳社</p>			
授業スケジュール	第 1 回	第 1 回	オリエンテーション (研究の進め方・論文の作成方法について)	
	第 2 回	第 2 回～第 4 回	先行研究・参考文献の資料収集	
	第 3 回	第 5 回	資料収集の報告発表，研究テーマの設定	
	第 4 回	第 6 回～第 10 回	予備実験	
	第 5 回	第 11 回	予備実験の報告発表，研究テーマの確定	
	第 6 回	第 12 回～第 22 回	本実験	
	第 7 回	第 23 回～第 26 回	論文作成，追加実験	
	第 8 回	第 27 回～第 29 回	研究発表の準備 (要旨・スライドの作成)	
	第 9 回	第 30 回	まとめ (要旨・スライド・論文の最終確認)	
	第 10 回			
	第 11 回			
	第 12 回			
	第 13 回			
	第 14 回			
	第 15 回			
授業外学習(予習・復習)	報告発表や課題を適宜指示するため，授業外での予習・復習・発表準備 (資料・スライドの作成) が必要である。			
成績評価の方法	卒業論文 (50%) + 研究発表 (20%) + 授業および課題への取り組み (30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究A		担当者	飯田 都
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	通年	[単位]	4単位
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学に関するテーマについてリサーチ・分析し,成果として卒業論文にまとめプレゼンテーションを行う。</p> <p>【概要】心理学に関する研究テーマ,ならびにリサーチクエスチョンを設定した上で,先行研究の概観,資料・データの収集・分析,結果の整理・考察を行う。成果を卒業論文としてまとめ,卒業研究発表会において発表する。</p> <p>【到達目標】・文献研究をもとに,個々の学生が,自身の研究テーマを決定する。・心理学の研究方法を用いて,自身のテーマに関わる問いにアプローチし,結果の分析・考察を行う。・年度末の発表会を通して,自身の研究をプレゼンテーションする力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜紹介する。</p> <p>(2) 松井豊 (2010) .『改訂新版 心理学論文の書き方…卒業論文や修士論文を書くために』河出書房</p>			
授業スケジュール	第 1 回	第 1 回	オリエンテーション	
	第 2 回	第 2～4 回	「問い」の意義,文献調査の方法,文献講読の方法	
	第 3 回	第 5～8 回	文献講読 (各自が持参した文献をもとにしたディスカッション)	
	第 4 回	第 9～10 回	「問い」の確定 (ゼミ内プレゼンテーション)	
	第 5 回	第 11 回～第 12 回	調査研究の進め方,研究方法	
	第 6 回	第 13 回～第 26 回	テーマ設定,情報収集,分析,結果整理,考察,論文の執筆 (毎回の報告)	
	第 7 回	第 27 回～第 29 回	発表会の資料作成,プレゼンテーションの準備	
	第 8 回	第 30 回	卒業研究発表会	
	第 9 回			
	第 10 回			
	第 11 回			
	第 12 回			
	第 13 回			
	第 14 回			
	第 15 回			
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課すため，授業時間外の学習を要す。			
成績評価の方法	卒業論文とプレゼンテーション (70%) + 授業への参加度と毎回の課題 (30%)			
実務経験について				

授業科目	ファッションデザイン論		担当者	田邊 しづか				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションデザインの基礎とその展開</p> <p>【概要】前半はファッションデザインの基礎である、形態、色、素材、それらを組み合わせたコンポジション、ファッションイメージについて学ぶ。後半は、被服設計を行うとき重要な人体やパターンについて学びつつ、デザイン画に必要な8頭身モデルや着装された衣服を描く。最終課題では、ファッションデザイン画を含むミニポートフォリオを作成する。</p> <p>【到達目標】ファッションデザインの考え方を理解し、設定されたコンセプトに沿ったファッションデザインを行い、他者に伝えるためのポートフォリオを作成することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、一部 Web でも公開</p> <p>(2) 文化服装学院編『文化ファッション大系 改訂版 服飾関連専門講座 (2) 服飾デザイン』, 文化出版局, 2021. ファッションクリエイション学科編『文化学園大学ファッションデザイン学講座 ファッション画』, 文化出版局, 2021.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業概要と進め方、デザイン史概説</p> <p>第 2 回 服飾デザインとは、20 世紀ファッション史、最新のコレクションを見る</p> <p>第 3 回 ファッションデザイン基礎 1：形態</p> <p>第 4 回 ファッションデザイン基礎 2：色彩、色彩のイメージ</p> <p>第 5 回 ファッションデザイン基礎 3：素材</p> <p>第 6 回 ファッションデザイン基礎 4：コンポジション、ファッションイメージ</p> <p>第 7 回 デザイン発想</p> <p>第 8 回 アパレル企画、流行</p> <p>第 9 回 最終課題に指定するテーマに関する講義とグループワーク</p> <p>第 10 回 人体の構造と計測点、ファッションデザイン画の 8 頭身モデル</p> <p>第 11 回 デザインとパターン 1：衿、袖/着装画の練習 (しわ)</p> <p>第 12 回 デザインとパターン 2：スカート、パンツ/着装画の練習 (フレア、プリーツ)</p> <p>第 13 回 ファッションデザイン実践 1：デザイン画の表現法/モデルへ着装</p> <p>第 14 回 ファッションデザイン実践 2：デザイン画の着色法/モデルへ着装</p> <p>第 15 回 アパレル動向、ファッションデザインのポートフォリオ、まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	期末課題提出 (40%) + 授業内実践課題 (30%) + 授業毎のコメントペーパー (30%) デザイン画を作成しますが絵が不得手でも構いません。理論の理解、課題への取り組みを評価します。							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッション造形 I		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙 (原型) の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p>【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座 2 スカートの・パンツ』文化出版局</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 下衣 (スカート) 製作 1：スカートの製図</p> <p>第 3 回 下衣 (スカート) 製作 2：表布の裁断、印つけ</p> <p>第 4 回 下衣 (スカート) 製作 3：仮縫い</p> <p>第 5 回 下衣 (スカート) 製作 4：試着、補正</p> <p>第 6 回 下衣 (スカート) 製作 5：表布の縫製 1</p> <p>第 7 回 下衣 (スカート) 製作 6：表布の縫製 2</p> <p>第 8 回 下衣 (スカート) 製作 7：ファスナーつけ</p> <p>第 9 回 下衣 (スカート) 製作 8：裏布の裁断、印つけ</p> <p>第 10 回 下衣 (スカート) 製作 9：裏布の縫製</p> <p>第 11 回 下衣 (スカート) 製作 10：ベルトつけ</p> <p>第 12 回 下衣 (スカート) 製作 11：仕上げ、着装評価</p> <p>第 13 回 上衣 (原型) 製作 1：上半身衣の原型</p> <p>第 14 回 上衣 (原型) 製作 2：上半身衣のデザイン展開</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化出版局							
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第3回 上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第4回 上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第5回 上衣（ブラウス）製作4：試着、補正 第6回 上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第7回 上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第8回 上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第9回 上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第10回 下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第11回 下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第12回 下衣（パンツ）製作3：仮縫い、試着、補正 第13回 下衣（パンツ）製作4：縫製 第14回 下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第15回 着装評価、まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッションアイテム演習		担当者	田邊 しずか				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションアイテムの知識と工芸技法の習得</p> <p>【概要】前半は、編物（編む）、刺繍（縫う）、組紐（組む）の工芸製作ならびに各技法に関する服飾品の歴史や造形を学ぶ。後半は手提げバッグを製作し、最終課題として前半に学んだ工芸を一部に取り入れた小物を製作する。加えて、副資材がアパレル小物にもたらす効果について学ぶ。</p> <p>【到達目標】各工芸について理解し、技法を習得し作品を仕上げることができる</p>							
(1)テキスト	(1) プリントを配布、一部 Web でも公開							
(2)参考文献	(2) 石井照子（編著）『生活造形—結ぶ・編む・組む・織る・繙う—』, 建帛社, 1995.							
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 編む1：編みの技法と実践 第3回 編む2：レース編みの実践 第4回 編む3：レースのモチーフ製作 第5回 組む1：組紐の技法と実践 第6回 日本の伝統的な結び、刺繍1：導入、道具の使い方、練習 第7回 刺繍2：刺繍サンブラー練習 第8回 刺繍3：刺繍サンブラー実践 第9回 刺繍4：刺繍モチーフの製作 第10回 副資材1：ファスナーポーチ 第11回 副資材2：手提げバッグの設計 第12回 副資材3：手提げバッグの製作（裁断等） 第13回 副資材4：手提げバッグの製作（縫製等） 第14回 副資材5：手提げバッグの製作（仕上げ等） 第15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業への取り組み (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッションビジネス		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p>【到達目標】 基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会							
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 ファッションビジネス知識1：ファッションビジネスの特性 第 3回 ファッションビジネス知識2：ファッション生活・消費 第 4回 ファッションビジネス知識3：ファッション産業構造 第 5回 ファッションビジネス知識4：ファッションマーケティング 第 6回 ファッションビジネス知識5：ファッションマーチャンダイジング 第 7回 ファッションビジネス知識6：ファッション生産と物流、流通 第 8回 ファッションビジネス知識7：販売管理とプロモーション 第 9回 ファッションビジネス知識8：ビジネス基礎知識と計数管理 第10回 ファッション造形知識1：ファッション文化・デザイン文化 第11回 ファッション造形知識2：ファッションコーディネート 第12回 ファッション造形知識3：ファッション商品知識—服種・アイテム 第13回 ファッション造形知識4：ファッションデザイン 第14回 ファッション造形知識5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	卒業研究B		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	通年	[単位]	4単位	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】 まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するのに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) 適宜配布							
(2)参考文献	(2) 適宜紹介							
授業スケジュール	第 1回 第 1回 オリエンテーション 第 2回 第 2～10回 卒業研究のための基礎知識1：文献購読 第 3回 第 11～12回 卒業研究のための基礎知識2：研究手法の検討・理解 第 4回 第 13～15回 卒業研究のための基礎知識3：テーマ設定と文献・情報収集 第 5回 第 16～23回 卒業研究1：各自の調査・研究・考察 第 6回 第 24～27回 卒業研究2：論文作成 第 7回 第 28～30回 卒業研究3：発表準備、練習 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ		担当者	北 一浩・上笹貫 鷹暁				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組みにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。</p> <p>※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗りの設定</p> <p>第 3回 実践課題 1 幾何形態色彩構成</p> <p>第 4回 ”</p> <p>第 5回 Illustrator 基本操作 3 パスの基本知識、ベジェ曲線</p> <p>第 6回 実践課題 2 ピクトグラム</p> <p>第 7回 ”</p> <p>第 8回 Illustrator 基本操作 4 文字入力、フォント、文字のアウトライン化</p> <p>第 9回 実践課題 3 タイポグラフィ構成</p> <p>第 10回 ”</p> <p>第 11回 応用課題 1 名刺のデザイン</p> <p>第 12回 ”</p> <p>第 13回 応用課題 2 ポスターのデザイン</p> <p>第 14回 ”</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。							

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いたビジュアルデザイン制作の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 ドローソフト「Adobe Illustrator」及び、画像編集ソフト「Adobe Photoshop」の基礎的な操作方法を学び、デザインワークに必要な表現技術と美的感覚を養う。</p> <p>【到達目標】 デザインワークを行う上で必要十分な Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の操作方法を習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Illustrator の基本操作 1 オブジェクトの作成 (選択ツール/ダイレクト選択ツール/オブジェクトツール)</p> <p>第 3回 Illustrator の基本操作 2 線と塗りの設定 (カラーパネル/グラデーションツール/透明パネル)</p> <p>第 4回 Illustrator の基本操作 3 オブジェクトの編集 (整列パネル/パスファインダー/変形/グループ化/重ね順)</p> <p>第 5回 Illustrator の基本操作 4 ペンツール (ペンツール/線パネル) \$</p> <p>第 6回 Illustrator の基本操作 5 文字の編集 (フォント/文字パネル/段落パネル/アウトライン)</p> <p>第 7回 Illustrator の基本操作 6 画像の配置と編集 (レイヤーパネル/クリッピングマスク)</p> <p>第 8回 Illustrator の基本操作 7 レイアウトの基本 (ガイドライン/近接・整列・反復・対比)</p> <p>第 9回 Photoshop の基本操作 1 基本操作と写真補正</p> <p>第 10回 Photoshop の基本操作 2 選択範囲とマスク</p> <p>第 11回 Photoshop の基本操作 3 レタッチと加工</p> <p>第 12回 実践課題 1 ポスター</p> <p>第 13回 実践課題 2 名刺</p> <p>第 14回 実践課題 3 チラシ 1</p> <p>第 15回 実践課題 3 チラシ 2</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業課題 (100%)							
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務							

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインと現代社会の関わりについて概観を得ることを通じて、地域の課題をデザインを用いて解決するための知識と思考力を身につける。</p> <p>【概要】地域の課題に対しデザインを用いて解決しようとする取り組みが全国各地に多く存在する。前半ではビジュアルデザインの現代社会における役割と意義を学び、後半では実例を通じて地域の多面性とデザインの可能性について理解を深める。</p> <p>【到達目標】現代のビジュアルデザインについて概観できる視野を身に付け、地域の課題を発見する力とデザインを用いて解決する力を養う。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション デザインとは</p> <p>第 2回 レイアウトの法則 (揃える / まとめる / 強弱 / 余白 / 配置法)</p> <p>第 3回 カラーの法則 (色相 / 明度 / 彩度 / トーン / イメージ / 配色)</p> <p>第 4回 文字の法則 (文字の種類 / イメージ / 文字組)</p> <p>第 5回 パッケージデザイン (役割 / ブランドイメージ / 社会環境)</p> <p>第 6回 ブランディングデザイン (ロゴ / VI / CI / ブランドコミュニケーション)</p> <p>第 7回 写真表現 (写真の基礎 / 構図 / ライティング / レタッチ / 記録と表現)</p> <p>第 8回 映像表現 (映像の基礎 / カメラワーク / 編集 / レタッチ / ストーリーと表現)</p> <p>第 9回 広告コミュニケーション (目的とターゲット / メディア / コンセプト / デザインとコピー)</p> <p>第 10回 Web メディア (Web サイトの基本 / Web デザイン / コンテンツ戦略 / デザインツールとテクノロジー)</p> <p>第 11回 地域とデザイン1 地域とデザイナー</p> <p>第 12回 地域とデザイン2 リデザイン</p> <p>第 13回 地域とデザイン3 コミュニティデザイン</p> <p>第 14回 地域とデザイン4 アイデアの発想法</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業課題 (40%) + 期末課題 (60%)							
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務							

授業科目	ビジュアルデザインⅠ		担当者	北 一浩				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。</p> <p>※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 ポスターデザイン 公共問題をテーマとしたポスター制作</p> <p>第 3回 //</p> <p>第 4回 //</p> <p>第 5回 パッケージデザイン 実際に使用されているパッケージのリデザイン</p> <p>第 6回 //</p> <p>第 7回 //</p> <p>第 8回 ブックカバーデザイン 本学大学案内の表紙のデザイン</p> <p>第 9回 //</p> <p>第 10回 //</p> <p>第 11回 ポートフォリオ制作 各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作</p> <p>第 12回 //</p> <p>第 13回 //</p> <p>第 14回 //</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。							

授業科目	ビジュアルデザインⅡ		担当者	北 一浩
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。</p> <p>※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 プロジェクト課題 内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。</p> <p>第 3回 //</p> <p>第 4回 //</p> <p>第 5回 //</p> <p>第 6回 //</p> <p>第 7回 //</p> <p>第 8回 //</p> <p>第 9回 //</p> <p>第 10回 //</p> <p>第 11回 自由課題 各自テーマを設定しデザインを行う</p> <p>第 12回 //</p> <p>第 13回 //</p> <p>第 14回 //</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	卒業研究C		担当者	北 一浩
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	通年	[単位]	4単位
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインに関連した分野の研究。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。</p> <p>【到達目標】研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 第 1-2回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 第 3-4回 以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。</p> <p>第 3回 第 5-6回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。</p> <p>第 4回 第 7-8回</p> <p>第 5回 第 9-10回</p> <p>第 6回 第 11-12回</p> <p>第 7回 第 13-14回</p> <p>第 8回 第 15-16回</p> <p>第 9回 第 17-18回</p> <p>第 10回 第 19-20回</p> <p>第 11回 第 21-22回</p> <p>第 12回 第 23-24回</p> <p>第 13回 第 25-26回</p> <p>第 14回 第 27-28回</p> <p>第 15回 第 29-30回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	研究成果 (50%) プレゼンテーション (25%) 研究態度 (25%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	住居史		担当者	川島 茂
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開拓しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。</p> <p>【到達目標】西洋様式建築、近代建築の理念と空間を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100人とその作品を巡る」アーキシップ叢書 (2) 矢代眞己・田所辰之助・濱寄良実 著「20世紀の空間デザイン」彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス 歴史を学ぶことの意味 第 2回 西洋様式建築の全体像 西洋様式建築について 第 3回 幾何学の明晰性-1-ルネサンス- 第 4回 幾何学の明晰性-2-ルネサンス- 第 5回 幾何学の明晰性-3-ルネサンス- 第 6回 手法の多義性-1-マニエリスム- 第 7回 手法の多義性-2-マニエリスム- 第 8回 均整のプロポーション-1-パラディオの建築- 第 9回 均整のプロポーション-2-パラディオの建築- 第 10回 空間のダイナミズム -バロック- 第 11回 崇高の自律性とピクチャレスクの他律性 -新古典主義- 第 12回 新素材と新技術 -近代の萌芽- 第 13回 思想の改革と運動の理念 -近代合理主義- 第 14回 インターナショナルスタイルとナショナリズム 第 15回 表層・深層・透層 -モダニズムの終焉-</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居・インテリア設計学		担当者	宍戸 克実
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し、身近な生活空間について考える。 【概要】建築空間を表現するための手段、図面の役割について理解するとともに、建築内外を構成するさまざまな要素についてのスケール感覚を身につける。また、商業施設や街の空間構成について理解し、多様な都市生活環境について学ぶ。 【到達目標】建築とインテリアについての理解が深まるとともに、暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示 (2) 中山繁信『スケッチ感覚でインテリアパースが描ける本』彰国社、大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：建築とインテリアの基礎知識 第 2回 住居の平面構成：暮らしと間取り 第 3回 図面表現：平面図、立面図、断面図、透視図① 第 4回 図面表現：透視図② 第 5回 図面表現：透視図③ 第 6回 多様な住空間：異文化の空間構成 第 7回 間取りプランニング：所要室の配置と規模 第 8回 間取りプランニング：集合住宅 第 9回 間取りプランニング：戸建平屋 第 10回 間取りプランニング：戸建複層 第 11回 間取りプランニング：三世帯住宅 第 12回 商業施設のデザイン：事例研究 第 13回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 14回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業課題・宿題 (50%)、発表・レポート (50%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目、教職必修

授業科目	設計製図Ⅰ		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し、建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。</p> <p>【概要】基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ、住宅を構成するさまざまな単位空間についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】基本的ルールに則った建築図面の作成ができ、住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社、日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：設計製図の基礎知識</p> <p>第2回 製図と模型の基礎：模型作成の手順（立体A）</p> <p>第3回 製図と模型の基礎：平行定規の使用法（立体B・C）</p> <p>第4回 製図と模型の基礎：製図道具の使用法（住宅A）</p> <p>第5回 製図と模型の基礎：平面図・立面図・断面図の理解（住宅A）</p> <p>第6回 製図と模型の基礎：縮尺と寸法の理解（住宅B）</p> <p>第7回 製図と模型の基礎：平面図・立面図・断面図の作成（住宅B）</p> <p>第8回 設計課題：5つの空間住宅・課題説明</p> <p>第9回 設計課題：エスキス、スタディ模型</p> <p>第10回 設計課題：エスキス、スタディ模型</p> <p>第11回 設計課題：模型作成</p> <p>第12回 設計課題：模型作成・模型写真撮影</p> <p>第13回 設計課題：図面作成（平面図）</p> <p>第14回 設計課題：図面作成（立面・断面図）</p> <p>第15回 設計課題：プレゼンテーション</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業課題・プレゼンテーション（100%）			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅱ		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。</p> <p>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせて、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。</p> <p>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p> <p>(2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 課題出題</p> <p>第2回 住宅の設計1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第3回 住宅の設計2 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第4回 住宅の設計3 平面計画</p> <p>第5回 住宅の設計4 断面、立面計画、外構計画</p> <p>第6回 住宅の設計5 ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</p> <p>第7回 住宅の設計6 提出、評価</p> <p>第8回 住宅の設計7 講評、課題出題</p> <p>第9回 ギャラリーの設計1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第10回 ギャラリーの設計2 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第11回 ギャラリーの設計3 平面計画</p> <p>第12回 ギャラリーの設計4 断面、立面計画、外構計画</p> <p>第13回 ギャラリーの設計5 ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</p> <p>第14回 ギャラリーの設計6 提出、評価</p> <p>第15回 ギャラリーの設計7 講評</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題（100%）			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅰ		担当者	田島 康弘
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。</p> <p>【概要】【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。</p> <p>【到達目標】【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 構造設計という仕事</p> <p>第 2回 建物にかかる様々な荷重</p> <p>第 3回 木質構造 1 特徴と材料</p> <p>第 4回 木質構造 2 軸組構法（在来工法）と枠組壁構法（2×4工法）</p> <p>第 5回 木質構造 3 現場見学 他</p> <p>第 6回 鉄骨構造 1 特徴と材料</p> <p>第 7回 鉄骨構造 2 建物ができるまで</p> <p>第 8回 鉄骨構造 3 現場見学 他</p> <p>第 9回 鉄筋コンクリート構造 1 特徴と材料</p> <p>第 10回 鉄筋コンクリート構造 2 建物ができるまで</p> <p>第 11回 鉄筋コンクリート構造 3 現場見学 他</p> <p>第 12回 基礎構造とその他の構造形式（プレストレストコンクリート構造 他）</p> <p>第 13回 主要構造部材（屋根、壁、床、天井、階段 他）</p> <p>第 14回 耐震設計（地震に強い建物）</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%）			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

授業科目	住居構造学Ⅱ		担当者	田島 康弘
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。</p> <p>【概要】【概要】住居構造学Ⅱでは、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 建築構造力学』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 建物の模型を作ろう 1</p> <p>第 2回 建物の模型を作ろう 2</p> <p>第 3回 力のモーメント（模型による演習含む）</p> <p>第 4回 力のつりあい（模型による演習含む）</p> <p>第 5回 構造物の支点（ローラー・ピン・固定）</p> <p>第 6回 反力の求め方</p> <p>第 7回 片持ばりに生じる力</p> <p>第 8回 単純ばりに生じる力</p> <p>第 9回 門型ラーメンに生じる力</p> <p>第 10回 トラスに生じる力</p> <p>第 11回 断面の性質（断面1次モーメント、断面2次モーメント、他）</p> <p>第 12回 部材に生じる応力度</p> <p>第 13回 片持ばり、単純ばりの変形</p> <p>第 14回 建築物の設計への応用</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（復習）			
成績評価の方法	レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%）			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

授業科目	住居環境学		担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画</p> <p>【概要】【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)			
授業スケジュール	第 1 回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築 第 2 回 光環境計画 1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図 第 3 回 光環境計画 2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備 第 4 回 光環境計画 3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算 第 5 回 光環境計画 4：光束法による照明計算、照明設備計画 第 6 回 熱環境計画 1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射 第 7 回 熱環境計画 2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算 第 8 回 熱環境計画 3：住まいと結露、結露判定の計算 第 9 回 熱環境計画 4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画 第 10 回 空気環境計画 1：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気 第 11 回 空気環境計画 2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算 第 12 回 空気環境計画 3：機械換気設備、換気設備計画 第 13 回 音環境計画 1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算 第 14 回 音環境計画 2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料 第 15 回 音環境計画 3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (80%) とレポート (20%) で評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居環境学演習		担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の計算と測定</p> <p>【概要】【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の計算・測定を行い、これらの結果に基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。住居における物理環境の計算・測定・評価法を修得すると同時に、パソコンと表計算ソフトを活用して、データの分析方法を学ぶ。以上より、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な計算・測定・評価方法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)			
授業スケジュール	第 1 回 クリモグラムの作成と気候に適した住居形態調査 第 2 回 日影図の作成と日照環境の評価 第 3 回 教室の照度分布測定と評価 第 4 回 教室の昼光率分布測定と評価 第 5 回 室内照明計算 第 6 回 定常伝熱計算（熱貫流率、伝熱量、表面温度） 第 7 回 定常伝熱計算（平均熱貫流率） 第 8 回 壁体の温度測定 第 9 回 壁体の結露判定計算 第 10 回 温熱環境の測定 第 11 回 温熱環境の分析と評価 第 12 回 必要換気量の計算 第 13 回 室内ガス濃度の測定 第 14 回 室内騒音の測定 第 15 回 室内騒音の分析と評価			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容を総合的に評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築材料学		担当者	福永 知哉
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 住居を中心とした建築物を構成する材料の特質と使用方法を学ぶ</p> <p>【概要】【概要】 持続可能な社会を構築する質の高い建物を建設・管理するために建築材料の特性を知り、適材適所に材料を使用することが不可欠である。本講義では建築の歴史を含め、建築材料に関する基礎知識を概説する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】 建築材料（構造材・仕上材）の種類や機能などの特性について、説明できることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社</p> <p>(2) 建築学会篇 「建築材料用教材」 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：建築材料と構造</p> <p>第 2回 建築材料の歴史：日本建築と木材</p> <p>第 3回 建築材料1：木材の特性を学ぶ</p> <p>第 4回 建築材料2：木材の用法・種類</p> <p>第 5回 建築材料3：コンクリートの特性</p> <p>第 6回 建築材料4：コンクリート2の配合と強度</p> <p>第 7回 建築材料5：鉄筋の種類と規格</p> <p>第 8回 建築材料6：鉄骨と接合</p> <p>第 9回 建築材料7：材料の強度：</p> <p>第 10回 建築材料8：その他の主要材料（石・左官材・ガラス・建具）</p> <p>第 11回 建築材料9：環境にやさしい材料</p> <p>第 12回 建築材料10：内外装の仕上げ材</p> <p>第 13回 建築実例1：リフォームとリサイクル</p> <p>第 14回 建築実例2：これからの建築材料</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	建築生産		担当者	福永 知哉
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ</p> <p>【概要】【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する必要がある。本講義では建築の品質・施工管理や施工技術の観点から建築生産のプロセスを概説する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】 建築生産の概要を理解し、建物の企画、設計、施工、維持管理等の生産工程を習得することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 今村仁美、田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋、古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：建築生産論</p> <p>第 2回 プロセス1：積算・契約</p> <p>第 3回 プロセス2：設計・監理</p> <p>第 4回 施工計画1：木造建築</p> <p>第 5回 施工計画2：鉄筋コンクリート造</p> <p>第 6回 施工計画3：鉄骨造とその他の構造</p> <p>第 7回 施工計画4：各種工事工程の管理</p> <p>第 8回 まとめ</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

(注) 7.5回

授業科目	建築法規		担当者	未定
	[履修年次] 2年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住宅をはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法等について学ぶ。</p> <p>【概要】建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、安全性や快適性等を確保するための最低基準を定めた建築基準法等を守らなければならない。建築物の安全・衛生を確保するための基準や市街地の安全・環境を確保するための基準を定めた建築基準法を中心に、建築法規について解説する。</p> <p>【到達目標】住宅や店舗・事務所等の建築物を安全に建てる際に必要な建築法規の基礎を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「いちばんやさしい 建築基準法 改訂2版」 発行所：株式会社 新星出版社</p> <p>(2) 適宜関連資料を配付</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 建築基準法は何のために (建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語)</p> <p>第 2回 とともに地域で生活していくために (道路、用途制限、容積率、建蔽率、高さ制限、まちづくり制度)</p> <p>第 3回 火災や災害から人命や財産を守るために (防火規定)</p> <p>第 4回 火災や災害時に安全に避難するために (避難規定)</p> <p>第 5回 安全な構造を維持するために (構造安全規定)</p> <p>第 6回 よりよい住環境のために (一般構造規定：採光、換気、衛生、階段等)</p> <p>第 7回 法が守られるために (制度規定、建築関連法規)</p> <p>第 8回 まとめ (建築基準法等の改正動向等)</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) ミニテスト (30%)			
実務経験について				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

(注) 7.5回

授業科目	CAD設計		担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】CAD やプレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・作品表現方法について学ぶ。</p> <p>【概要】2次元CAD (Vectorworks), 3次元CAD (SketchUp), 画像編集の他、多様な関連ソフトを体験する。</p> <p>【到達目標】CAD ソフトの操作法を習得し、基礎的な建築図面を作成できる。また、関連する多様なソフトの体験を通じ、プレゼンテーションスキルの幅が広がる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) Aiprah『VECTORWORKS パーフェクトバイブル』翔泳社, ObraClub『やさしく学ぶSketchUp』エクスマレッジ</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：CAD について、関連ソフト・周辺機器について</p> <p>第 2回 2次元CAD：Vectorworks 基本操作</p> <p>第 3回 2次元CAD：Vectorworks 基本操作</p> <p>第 4回 2次元CAD：Vectorworks：図面作成</p> <p>第 5回 2次元CAD：Vectorworks：図面作成</p> <p>第 6回 2次元CAD：Vectorworks：地図・地形図</p> <p>第 7回 2次元CAD：Vectorworks：立体図</p> <p>第 8回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 9回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 10回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 11回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 12回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 13回 関連ソフトの理解：Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等</p> <p>第 14回 関連ソフトの理解：Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業内課題 (100%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築史		担当者	宍戸 克実		
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本及び世界の建築・都市の歴史について学び、建築物や街並みの構成原理について考える。</p> <p>【概要】ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジアの他、日本の都市空間や建築物について学ぶ。</p> <p>【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに、身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 杉本龍彦『建築用語図鑑 西洋篇』オーム社、中山繁信『建築用語図鑑 日本篇』オーム社</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：鹿児島都市と建築</p> <p>第 2 回 西洋建築史：古代建築</p> <p>第 3 回 西洋建築史：中世建築</p> <p>第 4 回 西洋建築史：近世建築</p> <p>第 5 回 日本建築史：古代建築</p> <p>第 6 回 日本建築史：中世建築</p> <p>第 7 回 日本建築史：近世建築</p> <p>第 8 回 西洋・日本建築史：近代建築</p> <p>第 9 回 世界の都市の歴史：アメリカ、ヨーロッパ</p> <p>第 10 回 世界の都市の歴史：日本、アジア</p> <p>第 11 回 世界の都市の歴史：中東、アフリカ</p> <p>第 12 回 世界の都市の公共空間：市場、カフェ、商店街</p> <p>第 13 回 世界の都市の公共空間：広場、浴場、宗教施設</p> <p>第 14 回 イスラーム地域の都市文化：トルコ・イラン・エジプト</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。					
成績評価の方法	ミニッツペーパー・小テスト (70%)、レポート (30%)					
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。					

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	CAD設計特講		担当者	宍戸 克実		
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】CAD設計で習得したスキルを応用して課題に取り組む。設計製図Ⅲと連動したカリキュラム。</p> <p>【概要】前半はCAD関連ソフトを用いた応用的に使用する課題に取り組み、後期は二級建築士が設計可能な建築図面の作成課題に取り組む。</p> <p>【到達目標】CAD及び関連ソフトを複合的に使いこなし、建築物や周辺環境、都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：CADソフトとプレゼン関連機器について</p> <p>第 2 回 CADと地図データ：地理院地図、GoogleEarth、ゼンリン地図</p> <p>第 3 回 3DCADと立体地形：SketchUp</p> <p>第 4 回 3DCADと街並み再現：SketchUp</p> <p>第 5 回 CADとプレゼンソフト：Vectorworks、Photoshop、その他</p> <p>第 6 回 CADとプレゼンソフト：Vectorworks、iMovie</p> <p>第 7 回 課題1：平面図 Vectorworks</p> <p>第 8 回 課題1：平面図 Vectorworks</p> <p>第 9 回 課題2：立面図・断面図 Vectorworks</p> <p>第 10 回 課題2：立面図・断面図 Vectorworks</p> <p>第 11 回 課題3：矩計図 Vectorworks</p> <p>第 12 回 課題3：矩計図 Vectorworks</p> <p>第 13 回 課題4：地域分析図 Vectorworks</p> <p>第 14 回 課題4：地域分析図 Vectorworks</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。					
成績評価の方法	演習課題の発表・提出 (100%)					
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。					

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅲ		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の計画、手順、図面理解。CAD 設計特講と連動するカリキュラム。</p> <p>【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み、課題文の読解、エスキス方法、要求図面について学ぶ。</p> <p>【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。</p>			
(1)テキスト	(1) 授業中に指示			
(2)参考文献	(2) 日建学院教材研究会『2級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社			
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：建築士資格と試験、課題文の理解、例題</p> <p>第 2 回 エスキス課題 1：木造専用住宅</p> <p>第 3 回 エスキス課題 2：木造併用住宅</p> <p>第 4 回 エスキス課題 3：木造併用住宅</p> <p>第 5 回 エスキス課題 4：鉄骨造・小規模な公共施設</p> <p>第 6 回 エスキス課題 5：RC 造・小規模な公共施設</p> <p>第 7 回 作図課題 1：木造併用住宅・平面図</p> <p>第 8 回 作図課題 1：木造併用住宅・平面図</p> <p>第 9 回 作図課題 2：木造併用住宅・立面図</p> <p>第 10 回 作図課題 2：木造併用住宅・断面図</p> <p>第 11 回 作図課題 3：木造・矩計図</p> <p>第 12 回 作図課題 3：木造・矩計図</p> <p>第 13 回 課題：軸組在来工法の理解・軸組模型</p> <p>第 14 回 課題：軸組在来工法の理解・軸組模型</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	演習課題の提出 (100%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅳ		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	通年	〔単位〕	4単位
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域に根ざした建築や都市の空間構成を考察し、地域課題の解決に向けた設計提案を試みる。</p> <p>【概要】本科目は通年科目である。前期は課題として設定した地域・建築の既存情報を整理し、図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は、前期の成果をもとに地域の課題と向き合い、建築・都市的アプローチによる提案を試みる。</p> <p>【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。</p>			
(1)テキスト	(1) 授業中に指示			
(2)参考文献	(2) 泉山墨威『パブリックスペース活用事典』学芸出版社、日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成 都市再生』マルゼン出版			
授業スケジュール	<p>第 1 回 【前期】</p> <p>第 2 回 第 1 回～第 3 回〔課題 1〕建築及び都市研究、製作・事例研究、資料調査、現地調査</p> <p>第 3 回 第 4 回～第 6 回〔課題 1〕地域分析・ディスカッション</p> <p>第 4 回 第 7 回～第 9 回〔課題 1〕地域模型の作成</p> <p>第 5 回 第 10 回～第 12 回〔課題 1〕プレゼン図の作成・発表</p> <p>第 6 回 第 13 回～第 15 回〔課題 1〕各自の研究・制作対象地の調査・研究</p> <p>第 7 回 【後期】</p> <p>第 8 回 第 16 回～第 21 回〔課題 2〕建築及び都市研究、製作・構想検討</p> <p>第 9 回 第 22 回～第 27 回〔課題 2〕建築及び都市研究、製作・構想検討</p> <p>第 10 回 第 28 回～第 33 回〔課題 2〕発表・ディスカッション</p> <p>第 11 回 第 34 回～第 39 回〔課題 2〕都市構成図、地域構成図作成</p> <p>第 12 回 第 40 回～第 45 回〔課題 2〕平面図、立面図、断面図、その他図版</p> <p>第 13 回 第 46 回～第 51 回〔課題 2〕模型・プレゼン資料作成</p> <p>第 14 回 第 52 回～第 57 回〔課題 2〕発表資料、プレゼンボード</p> <p>第 15 回 第 59 回～第 60 回〔課題 2〕要旨・発表・論文提出</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	前期課題の発表・提出 (30%)、後期課題の発表・提出 (70%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	空間デザイン論		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅰ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】建築、インテリア等の実例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 空間デザインにもとめられるもの</p> <p>第 2 回 空間のテーマ コンセプトとは</p> <p>第 3 回 図面と表現 図面表現について</p> <p>第 4 回 平面図-1 平面図とは</p> <p>第 5 回 平面図-2 平面図演習</p> <p>第 6 回 断面図 平面から立体へ</p> <p>第 7 回 立体図-1 アクソメ図とアイソメ図</p> <p>第 8 回 立体図-2 透視図の原理と図法</p> <p>第 9 回 立体図-3 立体図によるプレゼンテーション</p> <p>第 10 回 表現ツールとしての CAD 操作演習</p> <p>第 11 回 住空間のコンセプト 狭小住宅課題</p> <p>第 12 回 住空間の計画 狭小住宅課題</p> <p>第 13 回 美術空間について-1 日本の美術館</p> <p>第 14 回 美術空間について-2 世界の美術館</p> <p>第 15 回 まとめ・講評</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題 (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

授業科目	空間デザインⅠ		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。 ※本講座は「卒業研究D」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。</p> <p>【到達目標】課題に対する多様なアイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p> <p>(2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス アイデアコンペについて</p> <p>第 2 回 コンペの選定 アイデアコンペに求められるもの</p> <p>第 3 回 コンセプトの立案-1 アイデアの発案-1</p> <p>第 4 回 コンセプトの立案-2 アイデアの発案-2</p> <p>第 5 回 コンセプトの立案-3 アイデアの発案-3</p> <p>第 6 回 計画案の立案-1 計画案のゾーニング</p> <p>第 7 回 計画案の立案-2 計画案のプランニング</p> <p>第 8 回 計画案の立案-3 計画案の立体</p> <p>第 9 回 中間講評-1 コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1</p> <p>第 10 回 中間講評-2 コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2</p> <p>第 11 回 計画案の再考 計画案のまとめ・模型作成</p> <p>第 12 回 プレゼンシート作成-1 プレゼンシートレイアウトと模型作成</p> <p>第 13 回 プレゼンシート作成-2 プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影</p> <p>第 14 回 プレゼンシート作成-3 プレゼンシート仕上げ</p> <p>第 15 回 講評</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題 (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

授業科目	空間デザインⅡ		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。 ※本講座は「卒業研究D」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 (2)				
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス プレゼンテーションとは 第 2回 プレゼンテーション準備 フォーマットの作成 第 3回 プレゼンテーション-1 狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1 第 4回 プレゼンテーション-2 狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2 第 5回 プレゼンテーション-3 狭小住宅課題の図面表現 第 6回 プレゼンテーション-4 住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1 第 7回 プレゼンテーション-5 住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2 第 8回 プレゼンテーション-6 住宅課題の図面表現 第 9回 プレゼンテーション-7 ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1 第 10回 プレゼンテーション-8 ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2 第 11回 プレゼンテーション-9 ギャラリー課題の図面表現 第 12回 プレゼンテーション-10 模型写真 第 13回 プレゼンテーション-11 レイアウト-1 第 14回 プレゼンテーション-12 レイアウト-2 第 15回 まとめ・レポート出題				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題 (100%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				

授業科目	卒業研究D		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	通年	[単位]	4単位	
		[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものが求められる。</p> <p>【概要】ゼミでは個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、十分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。</p> <p>【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。				
授業スケジュール	第 1回 第 1回 卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方 第 2回 第 2回～第 5回 卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定 第 3回 第 6回～第 12回 卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定 第 4回 第 13回～第 22回 卒業研究・設計課題：エスキス、設計 第 5回 第 23回～第 29回 卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成 第 6回 第 30回 卒業研究・設計課題：発表 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				